

平面ベクトルの復習

数学 6: 学習到達度試験対策 (担当: 藤井 忍)

1 ベクトルの演算

ベクトル $\vec{a} = (x_1, y_1)$, $\vec{b} = (x_2, y_2)$ と実数 k について

(1) $\vec{a} + \vec{b} = (x_1 + x_2, y_1 + y_2)$

(2) $\vec{a} - \vec{b} = (x_1 - x_2, y_1 - y_2)$

(3) $k\vec{a} = (kx_1, ky_1)$

(4) $-\vec{a} = (-x_1, -y_1)$

問題 1 $\vec{a} = (1, -2)$, $\vec{b} = (-3, 2)$ について, 次のベクトルを成分で表わせ.

(1) $\vec{a} + \vec{b}$

(2) $-2\vec{a}$

(3) $2\vec{a} - 3\vec{b}$

2 ベクトルの成分

ベクトル \vec{AB} の成分表示は $\vec{AB} = \vec{OB} - \vec{OA}$

問題 2 平面上の 3 点 $A(4, 0)$, $B(3, 5)$, $C(-2, -5)$ について, 次のベクトルを成分で表わせ.

(1) \vec{AB}

(2) \vec{BC}

(3) \vec{CA}

3 ベクトルの長さ

ベクトル $\vec{OA} = (x, y)$ の長さ $|\vec{OA}|$ は $|\vec{OA}| = \sqrt{x^2 + y^2}$

$A(x_1, y_1)$, $B(x_2, y_2)$ のとき, \vec{AB} の長さは $|\vec{AB}| = \sqrt{(x_2 - x_1)^2 + (y_2 - y_1)^2}$

問題 3 $A(2, -1)$, $B(3, 1)$ のとき, \vec{AB} の長さを求めよ.

4 内分点と外分点の位置ベクトル

3点 O, A, B について, $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ と表わすことにする.

- (1) 点 C が線分 AB を $m:n$ の比に内分する位置にあるとき, $\overrightarrow{OC} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n}$
- (2) 点 D が線分 AB を $m:n$ の比に外分する位置にあるとき, $\overrightarrow{OD} = \frac{-n\vec{a} + m\vec{b}}{m-n}$

問題 4 平面上の 3 点 $O(0, 0)$, $A(-3, 2)$, $B(4, -8)$ について以下の問題に答えよ.

- (1) 線分 AB を $2:3$ に内分する点 C の位置ベクトル \overrightarrow{OC}
- (2) 線分 AB を $2:3$ に外分する点 D の位置ベクトル \overrightarrow{OD}

5 ベクトルの内積

ともに $\vec{0}$ ではない 2 つのベクトル \vec{a} と \vec{b} の内積とは, \vec{a} と \vec{b} の始点をそろえたとき, それぞれの終点の位置関係を大雑把に表す数値.

- (1) \vec{a} と \vec{b} の成分が分かっているとき
 $\vec{a} = (x_1, y_1)$, $\vec{b} = (x_2, y_2)$ のとき, $\vec{a} \cdot \vec{b} = x_1x_2 + y_1y_2$
- (2) \vec{a} , \vec{b} の長さと, \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ ($0 \leq \theta \leq \pi$) が分かっているとき
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$

問題 5 ベクトル \vec{a} , \vec{b} について, $|\vec{a}| = 4$, $|\vec{b}| = 2$ で, \vec{a} と \vec{b} のなす角が $\frac{2}{3}\pi$ のとき, \vec{a} と \vec{b} の内積を求めよ.

問題 6 ベクトル $\vec{a} = (4, 2)$, $\vec{b} = (3, -1)$ のなす角を求めよ.

6 ベクトルの位置関係

ベクトル \vec{a} , \vec{b} はともに $\vec{0}$ ではないとする.

- (1) \vec{a} と \vec{b} が平行 $\iff \vec{b} = k\vec{a}$ をみたす実数 k ($k \neq 0$) が存在する
- (2) \vec{a} と \vec{b} が垂直 $\iff \vec{a}$ と \vec{b} のなす角が $\frac{\pi}{2}$ $\iff \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$

問題 7 ベクトル $\vec{a} = (1, 2)$, $\vec{b} = (x - 2, x)$ が平行になるように, x の値を定めよ.

問題 8 ベクトル $\vec{a} = (1, 2)$, $\vec{b} = (x - 2, x)$ が垂直になるような x の値を定めよ.

7 ベクトルと直線の位置関係

直線 l の方向ベクトル = l に平行なベクトル = l の傾きを表すベクトル.

直線 l の法線ベクトル = l に垂直なベクトル = l に垂直な直線の傾きを表すベクトル.

直線 $l: ax + by + c = 0$ (ただし a, b の少なくとも一方は 0 ではない) の方向ベクトル \vec{d} と法線ベクトル \vec{n} はそれぞれ

$$\begin{aligned}\vec{d} &= k(b, -a) && (\text{ただし } k \text{ は } 0 \text{ ではない実数}) \\ \vec{n} &= k'(a, b) && (\text{ただし } k' \text{ は } 0 \text{ ではない実数})\end{aligned}$$

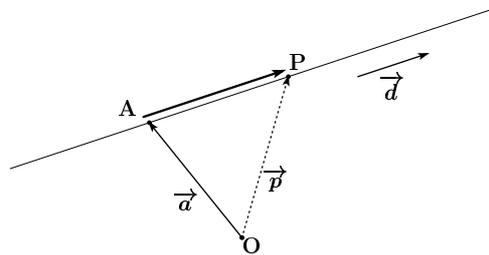
方向ベクトルと法線ベクトルは無数にたくさん存在する事に注意.

問題 9 直線 $3x + 4y - 5 = 0$ に平行なベクトルと垂直なベクトルをそれぞれ一つずつ求めよ.

8 直線のベクトル方程式

8-A 方向ベクトルが分かっている場合

点 $A(x_0, y_0)$ を通り, $\vec{d} = (a, b)$ を方向ベクトルとする直線 l のベクトル方程式は $\vec{p} = \vec{a} + t\vec{d}$



$\vec{p} = (x, y)$ において, 上の方程式を媒介変数表示すると
$$\begin{cases} x = x_0 + at \\ y = y_0 + bt \end{cases}$$

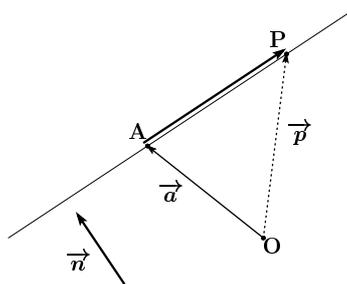
上の媒介変数表示から媒介変数 t を消去して直線の方程式を作ると $bx - ay = bx_0 - ay_0$

8-B 法線ベクトルが分かっている場合

点 $A(x_0, y_0)$ を通り, $\vec{n} = (a, b)$ を法線ベクトルとする直線 ℓ のベクトル方程式は $\vec{n} \cdot (\vec{p} - \vec{a}) = 0$

$\vec{p} = (x, y)$ において, $(a, b) \cdot (x - x_0, y - y_0) = 0$

上の方程式を展開・整理して直線の方程式を作ると $ax + by = ax_0 + by_0$



問題 10

- (1) 点 $A(2, 3)$ を通り, $\vec{d} = (1, 4)$ が方向ベクトルである直線の方程式を求めよ.
- (2) 点 $A(1, 2)$ を通り, $\vec{n} = (4, 3)$ が法線ベクトルである直線の方程式を求めよ.